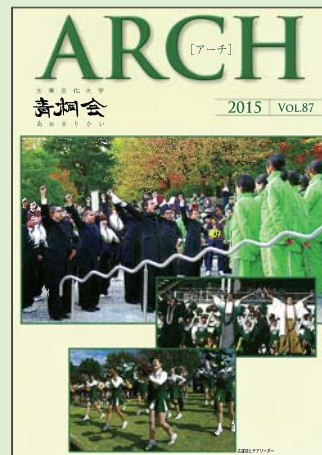
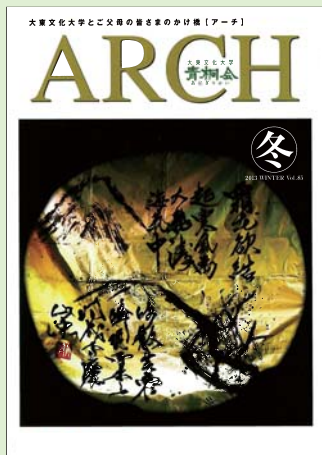
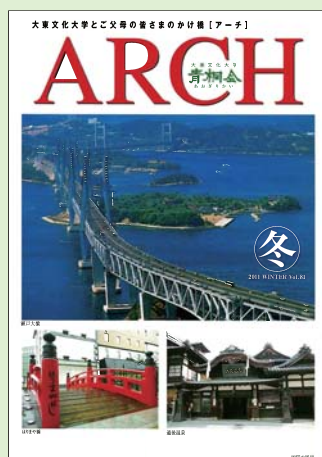


大東文化大学青桐会 (2016)

青桐会創設55周年記念誌



青桐会創設 55 周年記念誌

CONTENTS

挨拶 1

大東文化大学青桐会
会長 原田 俊恵

挨拶 2

大東文化大学
学長 太田 政男

学校法人大東文化学園
理事長 大橋 英五

青桐会の歴史（年表）..... 3

青桐会の歴史（解説）

草創期	1961～1971		6
成長期	1972～1986		7
成熟期	1987～2004		8
青桐改革期	2005～2016		9

活動概要 2012(平成 24)年度 10

第 33 代会長 山口 治

活動概要 2013(平成 25)年度 10

第 34 代会長 渡辺 重己

活動概要 2014(平成 26)年度 11

活動概要 2015(平成 27)年度 11

第 35 代会長 佐々木 一男

青桐賞受賞者（団体・個人）..... 12

青桐会歴代本部役員・支部長 13

編集後記 14

青桐会創設 55 周年の節目に



大東文化大学青桐会
会長 原田 俊恵

この度の平成 28 年熊本地震で被災されました皆様に対し、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。被災された会員の皆様に、青桐会より御見舞金をお送りいたしました。この場をお借りしまして、皆様にご報告させていただきます。

この 55 周年記念誌を発行するに当たり発足した編集委員会当日の朝、事務局に訃報が飛び込んできました。第 35 代会長の佐々木一男氏が亡くなったとの知らせでした。佐々木さんは、会長を二期務め、青桐会の組織財政の改革や、大学との協議に尽力され、その功績は、顕著なものでありました。感謝しても語りつくせません。ご冥福をお祈りします。

大東文化大学青桐会は、1961 年（昭和 36 年）9 月に父兄会として設立され、北海道支部を皮切りに全国 47 都道府県全てに支部が整い、活動しています。その目的は、「父母との連絡を密にし、大学との相互協力により学生が心身ともに健全で意義ある学生生活をおくり、その将来に希望と幸福をもたらすこと」とあります。我々は、その目的を果たしているのか？現在の活動で良いのか？迷うばかりです。この 55 年の歴史は、先人達も我々と同じように思い悩みながら、今日まで活動して来られたのでしょうか。そのご苦労なくして今の青桐会は存在しません。心から感謝と敬意を表します。しかし、時代は大きく変化しても、子を思う親の気持ちは何一つ変わっていません。今後も、大東文化大学の学生への支援・応援に努めて参ります。これまで、様々な形で会を支えてくださった大学関係、大学同窓会、青桐 O B 会の皆様に厚くお礼申し上げます。

創立 50 周年以降、青桐会の活動に新しく加わった事に、全国校舎見学会があります。東北地区の会員の皆様のご要望により始まった東松山キャンパスの見学会も、全国の会員の皆様に対象に開催し、多くの皆様にご参加頂いております。昨年は、板橋キャンパスの見学会も開催し、同日に、大学のキャリアセンターにご協力頂いて就職懇談会を開催し、大変ご好評を頂きました。

また、全国支部長会とは別に、8 つの地域ブロック毎に、ブロック会議を年 2 回開催し、本部から提案する議案に対する事前審議、各支部との情報交換等を行っています。それによって、地域ごとの交流が深まり、会員相互の親交に大きく役立っています。

今後も、会員の皆様からのご意見やご要望に少しでもお応え出来るよう、努力して参りたいと思います。より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、大東文化大学と青桐会の益々の発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



大東文化会館（1976 年）



大東文化会館（2016 年）

手を携え、 共に大学づくりを

大東文化大学
学 長 太田 政男



温かいキャンパス・ライフを 目指して

学校法人大東文化学園
理事長 大橋 英五



青桐会創設55周年、まことにありがとうございます。

長きにわたり、大東文化大学の教育の充実のために、また大学の発展のために多大なご協力をいただいていることに感謝申し上げます。

青桐会のみなさまには、支部総会などを通じて大学の教育活動、施設から広報に至るまで貴重なご意見をいただいています。それらは、大学の諸活動の改善のための貴重な提言であり、大学としても真摯に受け止め、改革に向けてのエネルギーとさせていただきます。

また、最近ではキャリアセンターの机やいす、パネルの寄贈やスポーツ寮の諸設備の更新に見られますように学生の教育・生活環境の改善・充実のために貢献していただいています。

文化団体を含む学生の自主活動の支援においても絶大なご尽力を賜っています。特に、大学のブランドでもあるスポーツの応援については、青桐会を抜きにして考えることができなくなっています。あらゆる大きな大会に林立する青桐会の幟は、大東文化大学の象徴ともなっています。私が「日本一の応援団」と形容するゆえんです。

何よりも青桐会の活動は、一人ひとりの父母・保護者の皆さんにとっても重要です。わが子の教育を心配する父母・保護者の皆さんにとって重要な情報源になっていると思います。支部総会は無しのこと、青桐会が発信するニュースなどは、大学と父母・保護者をつなぐ貴重なものであると思います。そのことにつきましても、大学としてありがたく存じております。

さて、大東文化大学は、今年創立93年目を迎え、DAITO VISION 2023 に描かれた百周年の大学像実現に向けて教職員一同努力しているところです。

社会のニーズに応え、新しい教育の分野を開拓し、新学科や新学部を設置し、学部の再編成を行っていくことで、魅力ある大学にしていくという大きな課題に取り組んでいます。

「教育の大東」の実現は、最大の課題です。その中心は、学生が生き生きと学ぶことのできる授業改革であり、現在全学で取り組んでいます。

今後とも共に手を携えてまいりましょう。

青桐会が創立55周年を迎えられました。長い間の活動に心より感謝申し上げます。

青桐会は長い歴史のなかで、大東文化大学とともに歩んできました。それぞれの時代のなかで、大学との関わり方は少しずつ異なっていますが、大学を心からご支援していただいたことは変わりません。青桐会は教職員、学生、役員、同窓会などとともに、大切な大学の構成員です。皆さんの財政的な支援、また学生活動への支援は学生のキャンパス・ライフをととても温かくしていただいています。

私は理事長に就任して始めて、昨年の年末、今年の年始に、富士山駅伝、箱根駅伝またラグビーと、何かと忙しく過ごさせていただきました。結果はともかく、いづれも選手たちの活躍に感動し、勇気づけられました。冬休みが明けて出校してみると、皆さんがこの話題でいっぱいでした。私にはスポーツがとても不思議にさえ思えました。そして、これらのいづれの場合にも青桐会の皆さんが組織的に、熱く応援して下さっていました。

スポーツに限らず、大学の施設、学生生活についても、ご支援や、きめ細かい、やさしい助言をいただいています。

ところで大東文化大学のキャンパスの整備は決して十分なものとはいえません。教育施設では教育の現状にあわせて教室が十分に整備されているとはいえません。またスポーツ施設についてもグラウンド、屋内練習場、トレーニング場、合宿所など決して充分とはいえません。さらに食堂、部室などの施設についても整備が急がれます。

教育環境を整備するためには、財政基盤が確保されなければなりません。すでに理事会では中長期財政計画が確認され、その実行が進んでいます。

私たちの課題は、大きくて難しいことが多いと思います。しかし全学をあげてこの課題に向って行きます。今後とも、引きつづいて青桐会のみなさまには、ご支援をお願いします。10年後20年後のより存在感のある大東文化大学を目指します。



板橋校舎



東松山校舎

青桐会の歴史

沿革		青桐会(旧父兄会)関係		大東文化学園(大東文化大学)関係			
西暦(和歴)	期	出来事	会長	出来事・建物の歴史	総長・学長	会頭・理事長	
1921(大正10年)		 平沼騏一郎初代総長 (第35代内閣総理大臣)	 九段校舎(1923年)	第44国会にて「漢学振興ニ関スル建議案」が可決			
1923(大正12年)				[9月]財団法人大東文化協会を設立、大東文化学院を九段に設立	平沼騏一郎(初)	大木遠吉(初)	
1925(大正14年)					井上哲次郎(2)		
1926(大正15年)					大島健一(3)	大島健一(2)	
1927(昭和2年)					鵜沢総明(4・5)	平沼騏一郎(3)	
1928(昭和3年)					大津淳一郎(6)	小川平吉(4)	
1929(昭和4年)						職務代理(副会頭)	
1932(昭和7年)					加藤政之助(7)	松平頼寿(5)	
1937(昭和12年)						松平頼寿(8)	
1938(昭和13年)						鵜沢総明(9)	
1940(昭和15年)		 池袋校舎(1949年)			松平頼寿(10)		
1941(昭和16年)					酒井忠正(11)	酒井忠正(6)	
1943(昭和18年)						鵜沢総明(7)	
1945(昭和20年)					鵜沢総明(12)		
1946(昭和23年)					藤塚郷(13)	鵜沢総明(初)	
1948(昭和23年)					土屋久泰(14)	土屋久泰(2)	
1949(昭和24年)				[6月]新制大学に移行、東京文政大学(文政学部)設置	土屋久泰(初)		
1952(昭和26年)				[2月]法人名を学校法人文政大学、校名を文政大学と改称認可			
1953(昭和28年)				[4月]法人名を学校法人大東文化大学、校名を大東文化大学と改称			
1954(昭和29年)							尾張真之介(3)
1958(昭和33年)			平島敏夫(2)				
1959(昭和34年)	準備期	大学の企画委員会で父兄会や後援会の設立について検討(2年間)					
1960(昭和35年)				[6月]法人名を学校法人大東文化学園と改称、[9月]大東柔道整復専門学校設立認可			
1961(昭和36年)	草創期	[7月]後援会(財政援助:岸信介会長)設立、[9月]父兄会(子弟教育、全国的規模の連繋)設立、父兄会会則の制定(目的:大学と協力して学生…)、会議は総会、理事会、本部役員会の3種類	下島儀貞(初)	[8月]大学を池袋より板橋区志村西台町(現在地)に移転		南条徳男(4)	
1962(昭和37年)							
1963(昭和38年)		[7月]安全互助会設立(当時は生命保険に団体加入したようである)、[9月]父兄会北海道支部設立(1972年までに47都道府県全てに支部が設立)、[-]父兄会会報創刊(1号)	岡田創(2)	[4月]経済学部経営学科開講	南条徳男(3)		
1964(昭和39年)				[4月]大学院文学研究科日本文学専攻・中国学専攻(修士課程)開講			
1966(昭和41年)			鈴木鉄次郎(3)				
1967(昭和42年)				[4月]文学部英米文学科開講、[4月]大東文化大学東松山キャンパス開設			
1968(昭和43年)		[5月、6月]学生自治会と大学及び父兄会で対話集会を開催		[4月]文学部外国語学科開講			
1969(昭和44年)		[年間]学生紛争発生防止のため大学と協力し学生との対話を連日のように実施し、大学総体として大きな紛争の発生を回避	松崎弥造(4)		佐伯梅友(4)	金子昇(5)	
1970(昭和45年)		[3月]大学内に父兄会事務局を確保し専任事務局長任命(専任事務局長職2006年3月まで続く)、[5月]定期総会で会長の解任動議が提出され残務処理後の退任が決定 [11月]前会長の退任を受けて新しい本部役員会を組織(終戦処理内閣・石河クッション時代)、[-]父兄会会報休刊(16号、以降1980年まで大東新聞の一部に父兄会の情報を掲載)	石河三郎(5)	[6月]第一高等学校新校舎竣工			
1971(昭和46年)		[4月]父兄会会費の大学による代理徴収がスタート、[10月]父兄会会則の目的を改正(目的:大学に協力して学生…)					
1972(昭和47年)	成長期	[3月]父兄会奈良県支部設立(47都道府県全てに支部が組織され、その後、会議に支部長会が加わり支部長の権限が明確となる)、[4月]父兄会の事務所規程・会計規程・旅費規程等の制定により規則類が整備)、[4月]桐朋会館(群馬県嬬恋セミナーハウス・大東文化会館)建設資金積立開始(6年間で2.85億円)	鈴木則幸(6)	[4月]文学部教育学科開講、[4月]外国語学部を改組し外国語学部中国語学科・英語学科開講、[4月]大東文化大学附属青桐幼稚園開園、[4月]大学院経済学研究科経済学専攻(修士課程)開講			
1973(昭和48年)		[9月]父兄会10年史発行		[4月]法学部法律学科開講、[10月]板橋校舎50周年記念館竣工(現交流の杜)			
1975(昭和50年)		[1月]株大東厚生社設立(群馬県嬬恋セミナーハウス・大東文化会館の管理運営)、[5月]群馬県嬬恋セミナーハウス竣工(建設費は父兄会の全額寄付)	高橋秀一(7)	[5月]群馬県嬬恋セミナーハウス竣工	池田末利(5)		
1976(昭和51年)		[11月]大型バス1台と映画「若い力」を大学に寄付、[12月]大東文化会館竣工(建設費は父兄会の全額寄付)	筋野勝三(8)	[12月]大東文化会館竣工			
1977(昭和52年)		[2月]大東文化会館オープン	高橋延雄(9)	[4月]大学院法学研究科法律学専攻(修士課程)開講			
1978(昭和53年)		[1月]株大東厚生社の問題が摘発される(厚生施設封鎖へ)、[年間]大学内紛に対応(理事長と学長の軋轢、不正入学等がマスコミと国会で取り上げられる)、[-]父兄会しおりの発行開始		[4月]大学院文学研究科英文学専攻(修士課程)開講、[4月]別科日本語研修課程開講、[4月]文学専攻科日本文学専攻・中国文学専攻、経済学専攻科経済学専攻開講			

1979(昭和54年)	成熟期	[5月]株大東厚生社解散、[11月]父兄会創設15周年記念式典開催(記念誌発行)	田島敏男(10)		池田末利(5)	時枝満康(6)
1980(昭和55年)		[3月]父兄会会報復刊(17号)、[11月]父兄会OB会が発足				
1981(昭和56年)		[6月]鈴木則幸(父兄会第6代会長)が学園の理事長に就任	石井文雄(11)			鈴木則幸(7)
1982(昭和57年)		[11月]父兄会20周年記念式典開催(記念誌発行)				
1983(昭和58年)			廣瀬鐵雄(12)		清原道壽(6)	大西経信(8)
1984(昭和59年)					香坂順一(7)	
1985(昭和60年)		[4月]父兄会として最後の建設資金積立実施(1年間で5.25千万円、累積で1.08億円)「特別事業運営資金」として継承(2009年に特別事業運営資金の流用基準を細則で規定)、[6月]下田博一(父兄会初代監事)が学園の理事長に就任				下田博一(9)
1986(昭和61年)		[4月]松山キャンパス60周年記念図書館建設費の一部(寄付金7億円強の約3分の1)を父兄が寄付、[11月]父兄会創設25周年記念式典開催(記念誌発行・ビデオ「いまその時」を作成)		[4月]国際関係学部国際関係学科・国際文化学科開講、[4月]松山キャンパス60周年記念図書館オープン		
1987(昭和62年)		[-]大学のイメージアップのため「安全環境改善」要望書を学長に提出(安全衛生施設、板橋安全交通、就学相談会を設置するとの回答により安全環境改善が実現)	旦光雄(13)		杉本良吉(8)	
1988(昭和63年)				[3月]東松山校舎建設および開発造成工事竣工		鎌形剛(10)
1989(平成元年)		[4月]板橋校舎1号館学生談話室に洋画(松田茂)を寄贈、[-]父兄会本部プロジェクトチームで学生寮・合宿所を視察(2009年にスポーツ寮の隔年視察を内規で規定)		[3月]板橋校舎1号館竣工		鈴木武夫(11)
1990(平成2年)			木全喜一(14)	[4月]法学部政治学科開講	穂積重行(9)	
1991(平成3年)		[11月]父兄会創設30周年記念式典開催「講演:大山康晴、加納典明」(記念誌発行・東松山キャンパスにメタセコイア植樹・パソコンルーム情報機器購入助成)		[4月]文学専攻科教育学専攻開講		
1993(平成5年)			高橋文朗(15)	[4月]外国語学部日本語学科開講、[4月]大学院経済学研究科経営学専攻(修士課程)開講	佐藤定幸(10)	
1994(平成6年)			杉本邦昭(16)	[4月]大学院法学研究科政治学専攻(修士課程)開講、[6月]長野県管平セミナーハウス竣工		
1995(平成7年)		[10月]学生就職対策助成(感謝のタペに対する父兄会からの寄付)がスタート(以後定例化)	西牧照福(17)	[5月]大東文化第一高等学校新校舎竣工		
1996(平成8年)		[8月]アトランタオリンピック男子マラソン学園応援団に小林副会長(18代会長)が参加、[11月]父兄会35周年記念誌発行		[4月]大学院法学研究科政治学専攻(博士課程後期)開講	諏訪義英(11)	
1997(平成9年)			小林信治(18)			田村房夫(12)
1998(平成10年)		[5月]父兄会会則の目的を改正(目的:大学との相互協力により学生…)	若井英雄(19)			諏訪義英(13)
1999(平成11年)			青木秀行(20)	[4月]大学院アジア地域研究科アジア地域研究専攻(修士課程)開講、[4月]大学院外国語学研究科中国語学専攻・英語学専攻・日本語学専攻(修士課程)開講	須藤敏昭(12)	竹内哲夫(14)
2000(平成12年)	青桐改革期	[5月]父兄会の理事会が廃止され、会議が総会・支部長会・本部役員会の3種類に簡素化される	露木正雄(21)	[4月]経営学部(経営学科・企業システム学科)開講、[4月]文学部書道学科開講		
2001(平成13年)		[11月]父兄会創設40周年記念式典開催(記念誌発行)、[-]父兄会ホームページを開設	時枝良治(22)	[4月]環境創造学部環境創造学科開講、[4月]経済学部(社会経済学科・現代経済学科)開講		
2002(平成14年)		[7月]カラー版「ARCH」新創刊(62号、「父兄会会報」からの新創刊、その他の広報誌として「父兄会しおり」が発行されていた)	柳井一男(23)			
2003(平成15年)		[-]ホームページの更新ストップを含め活動が停滞	武井照行(24)	[4月]経営学研究科経営学専攻開講、[4月]文学研究科書道学専攻(修士課程)開講		
2004(平成16年)		[年間]名称変更のための準備を実施、[-]父兄会本部の会計制度見直し・父兄会本部にフリーダイヤルの設置・校歌CDを全学生に配布(入学式で新入生への校歌CD配布が定篇)、[-]新潟県中越地震の被災会員に災害見舞を実施	長谷川順一(25)	[4月]法務研究科法務専攻(専門職学位課程)信濃町駅ビルに設置		
2005(平成17年)		[5月]父兄会から青桐会へ名称変更・青桐会ホームページを構築、[年間]父兄会本部及び支部並びに事務局の組織の見直しを実施、[-]学生の意見を聞くために学生自治会・体育連合会・文化団体連合会との会合を実施	東海林達彦(26)	[4月]スポーツ・健康科学部開講、[4月]文学部中国文学科を中国学科に改称、[8月]板橋キャンパス整備計画第II期工事(体育館・厚生棟)竣工、[9月]東松山校舎新9号館竣工	和田守(13)	
2006(平成18年)		[4月]会長が事務局長を兼務(2009年に兼務が内規で規定)、[6月]板橋キャンパスに樹木を寄付(交流の杜)、[9月]群馬県燐恋セミナーハウス(廃館)最後の見学研修会実施、[11月]名称変更報告を中心とした青桐会創設45周年記念式典開催「講演:倉本聡」(記念誌発行)	曾田芳光(27)	[4月]ピアトリクス・ボター資料館竣工		國岡昭夫(15)
2007(平成19年)		[9月]青桐賞創設、[-]新潟県中越沖地震・能登半島地震の被災会員に災害見舞を実施、[-]地方税の課税団体であった青桐会の収入状況を板橋都税事務所と本庁担当局に説明し、法令の解釈の変更により非課税団体として認められる	吉田信博(28)	[4月]大東文化大学東松山キャンパス開設40周年、[5月]板橋キャンパス整備計画第III期工事竣工(思索の杜・交流の杜)※全事業完了		
2008(平成20年)		[-]予算委員会を組織し次年度予算計画・重点事業企画作業を実施(以後定例化)、[-]岩手・宮城内陸地震の被災会員に災害見舞を実施、[年間]就職懇談会開催に伴う助成を全支部対象に試行(2009年から就職懇談会の時限見直し助成が細則で規定)	中川義男(29)	[4月]文学研究科教育学専攻(修士課程)開講、[9月]9月20日に創立85周年を迎える	渡部茂(14)	

2009(平成21年)	[年間]青桐会会則・細則・内規等の規則類を法体系として確立、[6月]父兄会OB会(1980年発足)が青桐OB会に名称変更、[9月]体育連合会激励会を開催(以後定例化)、[10月]就職懇談会DVDを作成し全支部に配布(埼玉県支部就職懇談会を事例として)	町田勝(30)	[4月]スポーツ・健康科学研究科(修士課程)開講	渡部茂(14)	市川謹(16)
2010(平成22年)	[8月]学長の突然の辞任で支部との調整を実施 [10月]箱根駅伝予選会敗退(44年連続ならず)応援見直しを実施 [12月]環境創造学部長の不正経理問題で支部との調整を実施	茂木龍彦(31)		職務代理 (岡田良徳)	
2011(平成23年)	[3月]東日本大震災の義援金募集を実施、[7月]東日本大震災の影響で定期総会が延期され開催(本部役員の女性比率が初めて50%を超える)、[-]東日本大震災に関連し青桐会の予算で義援金寄付・被災学生等への支援・被災会員1,362家庭に対して災害見舞を実施、[10月]文化団体連合会激励会を開催(以後定例化)、[11月]青桐会創設50周年記念式典開催「講演:二宮清純」(記念誌発行・記念DVD作成・板橋キャンパスに青桐植樹・青桐会ホームページを再構築)	杉浦俊幸(32)	[3月]東日本大震災の影響で卒業式を中止、[4月]入学式を約1カ月延期(4月30日実施)	太田政男(15)	
2012(平成24年)	[9月]全国を8つのブロックに分けた支部長懇談会の開催、[-]支部会員数の格差の変化に対応するため、支部の設置基準、運営のあり方支部編成の見直し等の検討	山口 治(33)	[8月]ロンドンオリンピックテコンドー7位(笠原江梨香選手)		
2013(平成25年)	[-]組織財政、体連担当、文連担当の3つの分科会の発足。支部運営を支える仕組みとして、全国を8つのブロックに分け支部活動の相互協力や支援をする仕組みを構築	渡辺重己(34)	[4月]学生支援センター発足、[6月]東松山キャンパス2期工事竣工、[7月]大学職員によるUSBメモリー紛失、[9月]大東文化大学創立90周年記念式典		
2014(平成26年)	[6月]全国合同校舎見学会、[-]組織財政の見直しから[ARCH]の発行を1回に変更、[-]大東文化大学創立90周年記念事業として板橋、東松山キャリアセンターに什器、備品を贈呈	佐々木一男(35)			
2015(平成27年)	[11月]キャリアセンターと連携して全国就職懇談会を開催、[-]独立した立場から監査を行うための「青桐会監事監査規定」の制定、[平成28年4月2日]佐々木会長急逝	原田俊恵 (会長代行)	[3月]東松山キャンパス3期工事竣工		大橋英五(17)

* 大学ホームページ、大学80周年記念誌、CROSSING、青桐会(父兄会)各周年記念誌・ARCH・父兄会報・総会資料及び後援会報から抜粋

青桐会(父兄会)の55年変遷を俯瞰すると、大きく4つの期間(時代)に区別することができます。最初は草創期で、成長期、成熟期、そして現在も続いている青桐改革期です。これらの4つの期間については別に示すことにしますが、55年間を通じて関連する3つのポイント「目的の変遷」「子弟教育と全国規模の連繫」「大学との関係」について触れます。

1. 目的の変遷(「と」から「に」へ、そして「との」へ)

目的は青桐会則の第2条に掲げられており、変わることがないと思われがちですが、55年間で大きく3回、その時代に合った目的が制定されてきました。初めは父兄会が設立された1961年(昭和36年)の「大学と協力して学生…」であり、次が1971年(昭和46年)の「大学に協力して学生…」であり、最後が1998年(平成10年)で「大学との相互協力により学生…」となっており、草創期の目的に戻りながら発展を意識した改正になっています。

2. 子弟教育と全国規模の連繫

続いて、子弟教育と全国的規模の連繫ですが、これは父兄会の設立時の理念と言って良いと思います。1963年(昭和38年)の北海道支部の設立からスタートし1972年(昭和47年)の奈良県支部の設立で47都道府県全てに支部が整い、学生を父母として応援するための全国組織として現在に至っています。

3. 大学との関係(困ったときの青桐会頼み)

大学との関係で、青桐会が大きく係った時が3回あります。1回目は、父兄会の設立そのものであり、財政的に困窮した大学が立

て直しの一環で父兄会の設立を計画しました。しかし、父兄会では対応できないほどの多額の費用を必要としたため、下島儀貞父兄会初代会長が昔から関係していた岸信介56・57代内閣総理大臣にお願いし、初代後援会長に就任いただき、東松山校舎の建設等で多大の協力を得ました。

2回目は1978年(昭和53年)頃であり、大学内紛(理事と学長の軋轢)・不正入試問題がマスコミと国会で取り上げられ、学園理事長が交代しました。その後しばらくの間、同窓会会員と父兄会OBから理事長が選出されていました。

3回目は2010年(平成22年)の学長の突然の辞任と環境創造学部長の不正経理問題であり、2名とも学園の理事でもあるため、内外からスピーディーで大規模な改革が迫られています。この件で青桐会としても支部との連絡や調整を行いました。

ここで、池田末利5代学長による父兄会創設15周年記念誌(1979年)の挨拶文の一部を原文のまま引用し、大学のあるべき姿についてまとめさせていただきます。

「…教育は建物でなく内容であることを痛感します。新制大学の発足によって、旧制の象牙の塔式大学が開かれた大学になったことは結構であります。大学は就職券発売所ではありません。学問の創造的發展に寄与し、人類文化の向上に貢献するものでなければ、大学の価値はありません。そして、何よりも大切なことは、かうした目的を達成する意味からも、大学は理性的・合理的存在でなければならぬといふことで、そこには些かの不正も一点の不義も許されません。私立大学といっても、それが公共性を担ふ存在である以上、その社会的責任に於いて国・公立大学と差別はありません。さればこそ、国民の血税による国庫から、十分とはいへないまでも多額の補助金を取って出ているのであります。」

草創期は、父兄会が設立された1961年(昭和36年)の下島儀貞初代会長から4代会長の解任動議が定期総会で決定され会長が途中交代した「終戦処理内閣・石河クッション時代」までの11年間で、草創の苦勞の多い期間であったと思います。

財政的に困窮した大学が立て直しを前提として、父兄会設立の2年前から大学の企画委員会で、子弟教育と財政援助等の課題を議論した中で設立が計画されました。父兄会は、一つ目の課題の子弟教育と全国的規模の連繫を主に行うことになりました。そして、全国47都道府県に支部が設立されました。大きな成果としては、1968年(昭和43年)からの数年間、学生紛争発生防止のために大学と協力し学生との対話を連日のように行い、大学総体として大きな紛

争の発生を回避することができました。この期間は、在任期間が長い実力会長が中心となって父兄会を強引にリードしたため、会員間の利害の衝突もあったようです。

もう一つの課題である財政援助は、別に後援会を設立することとし、下島儀貞初代会長が昔から関係していた岸信介56・57代内閣総理大臣にお願いし、初代後援会会長に就任いただきました。そして、大学の借入金の個人保証や国有林の払下げによる東松山校舎の建設等で多大の協力を得ました。なお、後援会は副会長に椎名悦三郎元自民党副総裁、司忠丸善社長、福田赳夫67代内閣総理大臣、その他の役員にも政財界の錚々たるメンバーが参加し、大学の基盤を作るために協力しつつ時代とともにその役割を終えて消滅しています。



初代会長 下島儀貞



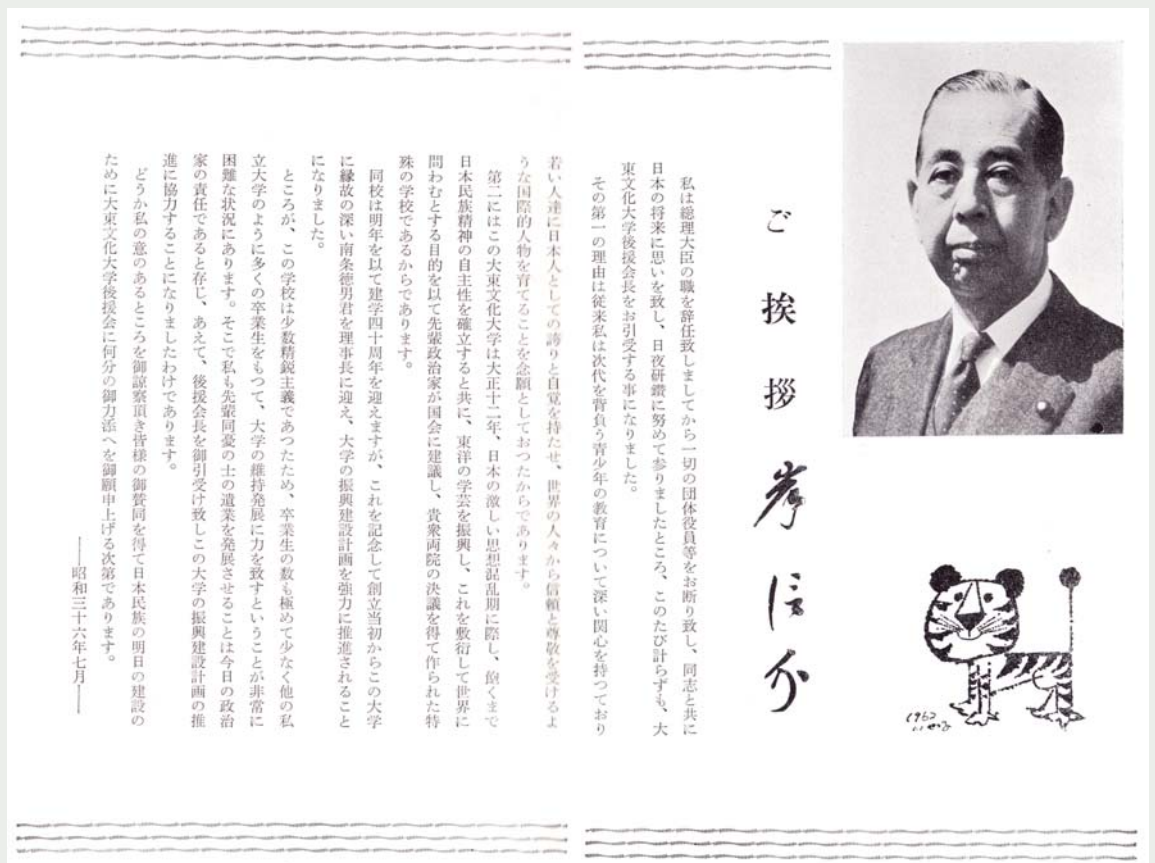
1968年当時の総会



大学宣伝用の野立看板(1967年頃 兵庫県芦屋市)



後援会趣意書



後援会会長挨拶

成長期 1972—1986

石河三郎 5 代会長の時に、父兄会の目的の改正、規程類の整備、会費の大学による代理徴収を行い、1972 年（昭和 47 年）の鈴木則幸 6 代会長から成長期がスタートしました。

成長期を一言でいうと父兄会による建設資金積立の期間であり、1972 年（昭和 47 年）からの桐朋会館建設資金（群馬県婦恋セミナーハウス、大東文化会館）から始まり、1986 年（昭和 61 年）の 60 周年図書館建設費寄付までの 14 年間でした。この間で集めた積立金の一部が、現在も残っている特別事業運営資金です。今から四半世紀前の父母が「幾多の困難を乗り越え汗を流して集めた寄付金であって、学生の要望に親炙した有意義な使途に当てるため保存しておくのであります。（初代会長の創設 35 周年記念誌での挨拶文の一部）」

この期間では、父兄会 10 年史の発行

（1973 年）、父兄会創設 15 周年記念式典（1979 年）、20 周年記念式典（1982 年）等が行われ、父兄会の 5～10 年単位の大きな流れの行事が定着しました。また、資金的に豊かなために群馬県婦恋セミナーハウスと大東文化会館の管理を行う㈱大東厚生社を設立したものの、経営難で解散する不名誉な出来事もありました。

また、大学でも大きな動きがあり、1978 年（昭和 53 年）には大学内紛（理事長と学長の軋轢）・不正入学問題がマスコミと国会で取り上げられ、5 代理事長が交代しました。そして、6 代理事長が同窓会会員から選出、次の 7 代理事長に鈴木則幸父兄会 6 代会長が選出、9 代理事長には下田博一父兄会初代監事が選出され、それぞれ学園経営に貢献されました。



第6代会長(第7代学園理事長)
鈴木則幸



父兄会会員之証(1972年頃)

残高証明書

大東文化大学五十年記念事業
建設資金父兄会臨時会費様

昭和 47.4.30 日現在

金額	合計	¥5,028,500
----	----	------------

(金額合計は当行所定の印字部で記入いたします)

科目	金額	摘要
普通預金	5,028,500	
	以下余白	
	47.2.29	29-25,000×152=3,260,000
	37-7,250×226=765,000	
		37,158

貴ご名義の上記勘定残高について相違ないことを証明いたします

昭和 47.5.4 日

第一勧業銀行 恵村支店

4/24入金合計 1,241,713
5/10 4/20 入2回
4/21,613 (2,372,260)

(この説明書の金額は訂正いたしません)

A 3001 (預金用)

46.10-114 第

建設資金積立の1ヶ月分の残高証明(1972年)



埼玉県支部東松山校舎見学(1979年)

1987—2004 成熟期

成熟期は1987年（昭和62年）の中興の祖と言われた旦光雄13代会長から2004年（平成16年）の長谷川順一25代会長までの17年間です。

この間は、大東文化大学のブランドイメージとして「スポーツの大東」が定着した期間であり、駅伝とラグビーの黄金時代を経験しています。正月早々、箱根駅伝の応援と国立競技場で行われたラグビー大学選手権の応援の掛け持ち等、参加した父母も楽しいひと時を過ごしたことになると思います。その黄金時代から既に20年の時が流れていますが、衰えたと言っても今まだ父母の間ではブランドイメージが残存しています。ですから、大学としてもこの状態を維持させながら学生の記憶にも残り続けるように、ブランドイメージの復活と発展に向けての努力を願うところです。

また、大学のイメージアップのための要望書の提出（1987年）、学生寮・合宿所の視察（1989年）、創設30周年記念式典（1991年）、学生就職対策助成（1995年）、創設35周年記念誌の発行（1996年）、創設40周年記念式典開催・父兄会ホームページ開設（2001年）、カラー版ARCH創刊（2002年）等、現在も引き継がれている様々な事業が開始された期間でもあります。

残念ですが、成熟期の最後の数年ではホームページの更新ストップを含めた活動が停滞したようです。しかし、成熟期の最終年の2004年は、父兄会の名称変更のための作業、震災等の被災会員への見舞、会計制度の見直し、父兄会本部にフリーダイヤルの設置及び校歌CDの作成等、積極的に動き多くの成果を残し青桐改革期の準備の年が終了しました。



ラグビー大学選手権優勝(1987年)



箱根駅伝優勝(1991年)



ARCH(2002年 会報のリニューアル)



父兄会報(1996年)



父兄会のしおり(2001年)



支部総会山梨県支部(1989年)

青桐改革期 2005—2016

2005年（平成17年）から青桐改革期がスタートし、さまざまな改革が行われ、現在まで続いてきています。成熟期の最後の年からの3年間で青桐会の土台を作る大きな改革が行われ、名称変更、本部・支部の組織の見直し等を行うとともに、学生からの情報の収集に力を入れました。そして2006年（平成18年）に名称変更の報告を中心とした創設45周年記念式典が開催されました。

続く3年間は課税団体から非課税団体への変更申請、予算委員会による予算積み上げと重点事業企画、就職懇談会開催費用の全支部への助成、青桐会会則・細則・内規の法体系としての確立及び体育連合激励会開催等の実務的で着実な改革が行われました。また2007年（平成19年）からは、学業や正課外の活動で称賛に値する学生への表彰が毎年行われています。

2010年（平成22年）には、学長の突然の辞任と環境創造学部長の不正経理問題が発生し、学園・大学としての猛省と内外からスピーディーで大規模な改革を迫られました。この件では、青桐会としても支部との連絡や調整を行いました。

2011年（平成23年）には、3月11日に東日本大震災が発生し、青桐会会員の1割強の会員が被災しました。青桐会として東日本大震災に対する一般からの義援金寄付・被災学生等への支援・被災会員1,362家庭への災害見舞を実施しました。

東日本大震災の影響で入学式が約1カ月延期されたことに連動して、青桐会の総会を定例の5月に開催することができなくなり、50年の歴史の中で初めてのことで7月に延期し開催しました。また、青桐会創設50周年記念事業として、記念式典を開催するとともに、記念誌の発行・記念DVDの作成・板橋キャンパスの植樹等を行いました。

私立大学の増加・少子化の進展・私学助成不交付基準の厳格化等、大学を取り巻く状況が大きく変化中、学生数の減少にともなう青桐会会員の減少が、組織運営や財政に対し深刻な問題として出てきました。

今後も青桐会の活動を続けていくために、組織運営の在り方の検討や改革・活動の棚卸と再構築を2012年（平成24年）から行いました。

2012年（平成24年）には、全国を8つのブロックに分け、支部長懇談会を初めて開催しました。

2013年（平成25年）には、新たな活動の仕組みとして地域ブロック（北海道・東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄）を構築するため、会則等の改正を行うとともに、ブロック会議の定期開催を開始しました。大東文化大学創設90周年にあたっては、キャリアセンターで学生たちが使用する什器や備品等の贈呈を行いました。一方、時代の変化とともにその役割を終えた学生就職対策助成（感謝のタペ）や激励会等の活動を中止しました。またこの年、大学職員が個人情報が入ったUSBメモリを紛失し、大学の信頼が大きく失墜しました。青桐会としては、速やかな処置を講ずるよう大学に強く申し入れるとともに、会員の個人情報管理の徹底を図りました。

2014年（平成26年）には、全国各地でのスポーツの応援をブロック単位で行うとともに、全国校舎見学会を東松山キャンパスに於いて開始しました。また、支部還付金基準の変更や就職懇談会助成基準の改正を行いました。さらに、支部間で齟齬が発生している、役員の任期や会計年度について統一を図りました。

2015年（平成27年）には、全国就職懇談会や板橋キャンパスでの全国校舎見学会を開始するとともに、ホームページを全面更改し、青桐会学生生活の手引き等の情報を閲覧できるようにしました。また、支部預かり金制度の創設や支部会計の適正化のため執行状況調査を行いました。

その改革の最中の2016年（平成28年）4月2日に、第35代青桐会会長の佐々木一男氏が、享年55歳で病に倒れ急逝されました。故・佐々木一男会長のご尽力に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

青桐会会長が現職で逝去されたのは、青桐会の長い歴史の中で初めての事であり、原田俊恵副会長が職務を代行しました。

2016年（平成28年）には、第36代青桐会会長として原田俊恵氏が選任されました。55年の歴史の中で女性が青桐会会長になるのは初めてであり、青桐会の新たな時代のスタートとして活躍が期待されています。



50周年記念式典



50周年記念青桐植樹



現在の青桐

2012 (平成 24) 年度 活動概要

青桐会第 33 代会長
山口 治



2012 (平成 24) 年度は、「大学と相互協力による学生生活や活動への援助・応援」「支部活動の充実と本部との緊密な連携」を事業の柱として取り組みました。

支部活動の充実については、滋賀、大阪、香川の各支部において会員数の減少及び青桐会活動に参加されない等により、支部長を選出することが出来ないという事態になってしまいました。

これらの支部については本部預かりとなり、支部長には本部副会長を充て、支部活動を行っていくこととしました。また、支部によっては、支部総会、就職懇談会しか行っていないところもあり、本部としてはいかにして支部活動を充実させていくかということで、近隣の支部が集まって活動が出来るようにするために、全国を 8 つに分けてブロック別支部長懇談会を開き、ブロック化に向けて動きだしました。

本部と支部の連携については、スポーツ応援において陸上競技部 (男子) の東京箱根間の駅伝の復活出場、陸上競技部 (女子) の全日本女子大学駅伝でのシード権獲得など開催された地域ブロック各支部との連携を図ることができ、また、テコンドー笠原江梨香選手がロンドンオリンピックに出場し、大学ではパブリックビューイングで大学関係者及び学生と応援することができ、おおいに盛り上がりました。

活動とは別の話となってしまいますが、他団体が当会事務局を事務所として使用しているとしての問題があり、事務所使用等の契約解除の申し入れを行い、数回の話し合いの末、事務所を移転していただくこととなりました。また、青桐会が入学式に配布する青桐会グッズ及び書類の中に保険の申込書が同封されているのはおかしいとの指摘がありました。大学には大東文化学園安全互助会があり、学生は入学と同時に加入し、授業中・課外活動中の怪我による通院・入院に対して保険金が支払われる学生教育研究災害傷害保険があることから、保険会社の代理店との契約を解除しました。



全日本女子大学駅伝報告会 (仙台)

2013 (平成 25) 年度 活動概要

青桐会第 34 代会長
渡辺 重己



2013 (平成 25) 年度からは事業を確実に推進する為、本部内に「組織財政」「体連担当」「文連担当」の 3 つの分科会を発足させました。

組織財政の面では、今後 5 年間の会員数の変化を予測するとともに、その変化が財政面でどう影響するかについて検討しました。その結果、全体的な会員の減少と支部運営の困窮という状況に直面しており、それに対応した組織運営を早急に確立していく必要があるとの結論に達しました。よって、今後の支部運営を支える仕組みとして、現在の都道府県別の支部組織を堅持しつつ、それらの活動を補完する仕組みとして、全国を 8 つの地域ブロックに分け、支部活動の相互協力や支援をする仕組みを構築する事とし、会則等の改正を行いました。

支部との連携強化の面では、ブロック別の支部長懇談会を年 2 回開催し、支部長の教育や会議議案の事前協議、情報共有等を行いました。特に陸上やラグビー等のスポーツ応援に関しては、全国各地で行われた大会において、本部と地域ブロックの各支部が一体となった応援を繰り広げ、スポーツ大東のサポーターとしての役割を大いに発揮しました。

就職支援の面では、難航する学生たちの就職活動に対し、少しでも多くの企業から求人が集まる様に、全会員に対し会員自身が勤務する会社からの求人を、大学に頂けるよう協力をお願いしました。また、埼玉県支部で開催された就職懇談会の内容を、報告書として作成し全会員に配布しました。

一方この年の 6 月、大学職員が学生及び保証人等、約 3 万人分の個人情報が入った USB メモリを紛失するという事故が発生しました。青桐会としては、紛失物の発見に全力を尽くす事、学生・保証人等へのお詫びと報告、原因の究明と再発防止策等の措置を早急に講ずるよう大学に強く要望しました。

また、青桐会としても多くの会員の個人情報を管理する立場から、管理の徹底と本部・支部役員への再教育を実施しました。



埼玉県支部就職懇談会

2014 (平成26) 年度 活動概要

青桐会第35代会長 佐々木 一男

【※2014年度・2015年度の2期に亘り務められました。】



大東文化大学創立90周年記念事業については、「記念グッズ販売」「記念Walkへの協賛」「ブックレットの送付協力」「スポーツ大会への協賛」を前年度に実施しましたが、設備等の助成に関しては2014（平成26）年度としました。当初は東松山キャンパス整備事業第3期工事の際の設備寄贈を検討してまいりました。しかし、既に工事の際の設備は充足しているとの結論となり、全ての学生が利用するキャリアセンターの設備を拡充する事としました。板橋キャリアセンターには学生が使用する机等の什器を、東松山キャリアセンターにはビデオカメラ等の備品を贈呈しました。

会則の改正により全国を8つの地域ブロック（北海道・東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄）に分け、支部活動の充実と本部との連携強化を図りました。地域ブロック別のブロック会議を秋と春に定期開催するとともに、大学選手権など全国各地で行われるスポーツの応援を、地域ブロックの各支部と本部が一体となって行いました。また、全国校舎見学会を東松山キャンパスに於いて初めて開催しました。

本部事務に関しては、青桐会会計システムの現状と今後の対策、新会計ソフトの検証及び選定、動産保険への加入、月次予算の作成と予算執行等を行い課題を解決しました。

組織財政の見直しでは、各支部の5年間の活動収支報告をまとめ、各支部還付金基準の変更、就職懇談会の助成に関する基準の変更等、青桐会細則の改正を行いました。また、各支部の支部会則について調査し、各支部における役員の任期や会計年度等について統一するための施策を講じました。

また、ある支部の支部長との連絡が取れなくなり、支部費全額が使途不明となり、支部の機能が停止してしまうという事件が発生しました。事件の解決に当たっては、本部役員はもとより大学にも協力をお願いし収拾に努めた結果、支部費全額を取り戻し再び支部活動を軌道に乗せる事が出来ました。今回の事件を教訓に、再発防止策の検討と対策を講じる事となりました。



創立90周年記念事業贈呈式

2015 (平成27) 年度 活動概要

2015（平成27）年度の活動としては、キャリアセンターとの連携を強化し、全国就職懇談会を初めて開催するとともに、就職支援強化策として、会員やOBが勤務する会社等からの求人票受付が随時できるようにホームページに、企業の方へのコーナーを設けました。

青桐会ホームページを全面更改して、スマートフォン等に対応できるようにするとともに、青桐会学生生活の手引きの掲載や、メールマガジン等を開始し、会員への情報提供を積極的に行いました。

本部事務に関して、事務局体制の検討と、前年度発生した事件の再発防止策の一環として、支部預かり金制度の創設を行いました。

組織財政の見直しでは、支部会計の適正化のため年2回の執行状況調査の実施、就職懇談会助成の審査を行いました。また、各支部の支部会則の改正状況についても再調査を実施し、会則統一のフォローを行いました。

監事が独立した立場から監査を行うため、「青桐会監事監査規程」を制定し、事業及び会計事務を監査しました。また、監事の監査について相互の連絡、協議、意見調整の為に監事会を設置しました。

その改革の最中の2016年（平成28年）4月2日に、第35代青桐会会長の佐々木一男氏が、享年55歳で病に倒れ急逝されました。故・佐々木一男氏は、青桐会埼玉県支部の推薦により、2013年（平成25年）から本部役員として常任理事1期・会長2期を歴任され、青桐会の運営発展に尽力されました。2016年（平成28年）には青桐会創設55周年記念事業を予定し、会長退任後も相談役として引き続きご尽力いただく予定でした。故・佐々木一男会長のご尽力に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

青桐会会長が現職で逝去されたのは、青桐会の歴史の中で初めての事であり、原田俊恵副会長が職務を代行しました。



青桐会ホームページ

青桐賞受賞者(団体・個人)

2011(平成23)年度

- ◇男子バスケットボール部
- ◇硬式野球部
- ◇女子サッカー部
- ◇相撲部・中央執行委員会(クリーンクリーンキャンペーン)
- ◇笠原江梨香(テコンドー)
- ◇山田勇磨(テコンドー)
- ◇辻将也(陸上競技 走り幅跳び)
- ◇森智香子(陸上競技部女子長距離)
- ◇田中哲矢(レスリング)
- ◇山本遼(公認会計士合格)
- ◇福田琴里(東日本大震災 募金活動)



2012(平成24)年度

- ◇中村ゼミ(「地域防災マップ」作製)
- ◇齋藤博ゼミ(公共政策コンペ入賞)
- ◇陸上競技部女子長距離
- ◇陸上競技部男子長距離
- ◇テコンドー部
- ◇弓道部
- ◇ローバースカウト部(震災ボランティア)
- ◇笠原江梨香(テコンドー ロンドンオリンピック)
- ◇今井遥(フィギュアスケート)
- ◇久保遼(書道 文部科学大臣受賞)
- ◇岸本隆一(プロバスケットボールチーム入団)



2013(平成25)年度

- ◇中国語研究部(中国語コンテスト優勝)
- ◇陸上競技部女子長距離
- ◇陸上競技部男子長距離
- ◇ラグビー部
- ◇テコンドー部
- ◇モダンダンス部
- ◇河野芳英ゼミ(被災地ボランティア活動)
- ◇五箇山合宿(地域連携プロジェクト)
- ◇相撲部(地域の夜間防犯パトロールなど)
- ◇西田千穂(全国書道展 文部科学大臣賞)



2014(平成26)年度

- ◇齋藤博ゼミ(日本公共政策コンペ 会長賞)
- ◇陸上競技部男子長距離
- ◇陸上競技部女子長距離
- ◇ラグビー部
- ◇テコンドー部
- ◇男子バスケットボール部
- ◇北原裕也(改組 第一回 日展 初入選)
- ◇船田聖也(改組 第一回 日展 初入選)
- ◇北村忠国(改組 第一回 日展 初入選)
- ◇滑田一輝(改組 第一回 日展 初入選)
- ◇三宅厚史郎(改組 第一回 日展 初入選)
- ◇辻中杏奈(スケート部 スピードスケート女子 500M 優勝)



2015(平成27)年度

- ◇なかいた環創堂(環境創造学部 10年の取り組み)
- ◇陸上競技部
- ◇ラグビー部
- ◇テコンドー部
- ◇女子サッカー部
- ◇滑田一輝(書道 改組 新 第二回 日展 2年連続入選)
- ◇藤井世樹(書道 改組 新 第二回 日展 初入選)
- ◇來司信博(書道 改組 新 第二回 日展 初入選)
- ◇荒井悠多(日臨技学生表彰 会長賞受賞)
- ◇宮澤拓臣(スキー部 スノーボード優勝)
- ◇阿部友里香(スキー部 パラリンピック クロスカントリー準優勝)



【2012(平成24)年度～2016(平成28)年度】

青 桐 会 歴 代 本 部 役 員

年度	2012 (平成24年)	2013 (平成25年)	2014 (平成26年)	2015 (平成27年)	2016 (平成28年)
名誉会長	太田 政男	太田 政男	太田 政男	太田 政男	太田 政男
顧問	茂木 龍彦	杉浦 俊幸	松浦 亨	松浦 亨	渡辺 重己
相談役	杉浦 俊幸	松浦 亨	渡辺 重己	渡辺 重己	
会 長	山口 治	渡辺 重己	佐々木 一男	佐々木 一男	原田 俊恵
副会長	松浦 亨	山口 治	濱崎 則子	森 浩史	後藤 里美
	小林 英子	小林 英子	中尾 信子	伊佐見 節子	北島 郁夫
	渡辺 重己	濱崎 則子	森 浩史	原田 俊恵	佐藤 正弘
常任理事	杉浦 俊幸	渡邊 由紀子	中茎 行男	松本 義治	坂井 竹男
	遠山 照美	根本 英子	新井 広美	坂井 竹男	栗原 力男
	渡邊 由紀子	中尾 信子	鈴木 貴美子	栗原 力男	高橋 知子
	宮崎 安公子	佐々木 一男	松本 義治	佐藤 正弘	麦倉 聡子
会 計	光藤 眞弓	新井 広美	伊佐見 節子	田中 明美	北島 佐知子
	養田 輝夫	鈴木 貴美子	原田 俊恵	北島 郁夫	宮本 貴代子
監 事	萩谷 春美	松島 亮子	池田 一枝	小谷野 純子	櫻井 妙子
	根本 英子	中茎 行男	湯本 誠	後藤 里美	森 浩史
	中尾 信子	山崎 静香	坂井 竹男	櫻井 妙子	松島 美加子

青 桐 会 歴 代 支 部 長

年度	2012 (平成24年)	2013 (平成25年)	2014 (平成26年)	2015 (平成27年)	2016 (平成28年)
北海道	石井 眞一	石井 眞一	西本 一二	西本 一二	丸井 慎一
青森県	小檜山 巳紀	小檜山 巳紀	鳥谷部 昇	浅野 信悦	浅野 信悦
岩手県	木村 正美	千葉 和仁	森 美枝子	藤林 隆博	千葉 秀彦
宮城県	松田 久義	戸坂 英子	池田 直美	市山 直之	市山 直之
秋田県	松雪 照美	沓沢 重人	加藤 光広	戸嶋 聖子	新藤 由美子
山形県	菅藤 順	黒沼 尚哉	田中 弘之	田中 弘之	村田 嘉正
福島県	横山 茂	佐原 佐百合	齊藤 光一	吉田 廣一	大内 春幸
茨城県	鰐坂 逸朗	鰐坂 逸朗	佐藤 英典	佐藤 英典	中村 英一
栃木県	潤米 幸夫	上村 賢吉	上村 賢吉	佐住 宏幸	佐住 宏幸
群馬県	井上 儀貞	森下 幸雄	森下 幸雄	朝川 浩二	加藤 武志
埼玉県	田中 久康	今井 秀和	高橋 正一	鈴木 康子	井上 輝彦
千葉県	保坂 美恵子	中村 淳子	齊藤 芳浩	行木 省吾	松本 義治
東京都	森田 勝利	森田 勝利	鈴木 昭広	高橋 秀和	秋元 辰夫
神奈川県	川端 まゆみ	藤本 昌生	若菜 健二	屋比久 眞弓	川尻 邦夫
山梨県	宮下 光夫	宮下 光夫	内藤 愛彦	町田 修一郎	久保田 忠行
新潟県	内山 茂	西脇 忠彰	小林 弘武	長谷川 真	鷲尾 達雄
富山県	永田 宏美	永田 宏美	平永 喜代司	荒井 和樹	林 久嗣
石川県	濱岸 辰也	中田 和子	太田 宏	田谷 昭宏	濱岸 辰也
福井県	北出 正美	森 義孝	森 義孝	森 義孝	平内 勝彦
長野県	金井 良明	小林 豊	田村 昌美	中村 義彦	上田 成樹
岐阜県	野中 健児	岩田 浩司	岩田 浩司	中谷 昭彦	中谷 昭彦
静岡県	鈴木 隆臣	内田 好男	三島 孝介	町田 勇	土屋 元一
愛知県	栗田 透	水野 康博	宮元 信幸	河野 祐美子	河野 祐美子

年度	2012 (平成24年)	2013 (平成25年)	2014 (平成26年)	2015 (平成27年)	2016 (平成28年)
三重県	杉山 純	杉山 純		鷲尾 敦	鷲尾 敦
滋賀県			熊谷 浩一	熊谷 浩一	熊谷 浩一
京都府	友尾 富栄	木藤古 喜美子	山田 由和	山田 由和	山田 由和
大阪府			盛田 佳代	盛田 佳代	盛田 佳代
兵庫県	神戸 美鈴	神戸 美鈴	大井手 江里子	大井手 江里子	大井手 江里子
奈良県	高塚 つぐ美	井上 恭子	久保見 純子	久保見 純子	湯川 正吾
和歌山県	松村 彰文	松村 彰文	松村 彰文	松村 彰文	
鳥取県	荒木 千彰	荒木 千彰	荒木 千彰	廣田 誠一	廣田 誠一
島根県	小村 収好	小村 収好	吉川 修二	山崎 孝一	浅野 隆司
岡山県	西中 学	山本 将司	山本 将司	大隅 輝記	重松 薫
広島県	富永 真也	瀧谷 淳子	瀧谷 淳子	瀧谷 淳子	瀧谷 淳子
山口県	岸田 英樹	平岡 博美	佐田尾 圭子	渡辺 佳野代	倉田 真由美
徳島県	立花 正規	黒瀬 幸枝	四宮 小百合	四宮 小百合	四宮 小百合
香川県					合田 一則
愛媛県	豊田 秀司	竹原 士史	竹原 士史	宇都宮 育子	近藤 久美
高知県	正木 秀市	正木 秀市	佐々木 正彦	佐々木 正彦	藤岡 清志
福岡県	小澤 昭喜	佐藤 哲也	相良 利彦	大橋 一徳	堤 秀治
佐賀県	納富 俊文	納富 俊文	森口 浩幸	石橋 寛	酒井 節子
長崎県	森 雅弘	森 雅弘	神近 秀夫	神近 秀夫	立石 靖司
熊本県	松岡 利春	村山 信治	青山 英雄	黒岩 雅樹	宮本 陽一郎
大分県	城戸岡 康介	高木 富佐太	武内 司	土居 孝信	高橋 哲雄
宮崎県	玉利 勇二	甲斐 清張	甲斐 清張	植木 俊郎	長田 慎一郎
鹿児島県	平山 智章	山下 幸雄	安藤 正和	安藤 正和	角 由美子
沖縄県	島袋 順子	砂川 明美	砂川 明美	金城 雄高	金城 雄高
支部長不在	3支部	3支部	2支部	1支部	1支部

■青桐会創設 55 周年記念誌編集委員会

(2015 年 12 月～2016 年 11 月)

委員長 松浦 亨
 副委員長 原田 俊恵
 委員 杉浦 俊幸
 // 山口 治
 // 小林 英子
 // 渡辺 重己
 // 故・佐々木 一男 (～2016 年 4 月)
 // 森 浩史 (～2016 年 5 月)
 // 伊佐見 節子 (～2016 年 5 月)
 // 栗原 力男 (～2016 年 5 月)
 // 田中 明美 (～2016 年 5 月)
 // 後藤 里美 (2016 年 6 月～)
 // 北島 郁夫 (2016 年 6 月～)
 // 佐藤 正弘 (2016 年 6 月～)
 事務局 野上 智恵子

編集後記

大東文化大学青桐会では、創設 55 周年を迎えるにあたり、記念式典は行わずに、青桐会年史として記念誌を発行することになりました。2015 年 (平成 27 年) 12 月に編集委員会が発足し、記念誌の内容は、創設 50 周年記念誌の青桐会年表を基本にその後の 5 年間分を追加する構成としました。青桐会関係者のご協力により、発行に至りましたが惜しむらくは、今年 4 月に故・佐々木一男氏 (第 35 代会長) が急逝されたことです。

故・佐々木会長の青桐会へのご尽力に深く感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

(松浦 記)

大東文化大学青桐会創設 55 周年記念誌

発行日 2016 年 11 月 10 日
 発行人 原田 俊恵
 編集 青桐会創設 55 周年記念誌編集委員会
 発行 大東文化大学青桐会
 東京都板橋区徳丸 2-4-21 大東文化会館
 TEL 03-3936-6464 FAX 03-3936-6465
 写真提供 大東文化大学入試広報室
 印刷 有限会社 栄章

